

東久留米市教育委員会殿

学校名 東久留米市立南町小学校
校長名 伊藤 幸一

印

令和2年度教育課程について（届）

このことについて、東久留米市立学校の管理運営に関する規則第20条により、学校教育法施行規則第138条の規定に基づく特別支援学級（知的固定）の教育課程を下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

法規に定められた教育の目的・目標を受け、都・市の目標に即し、児童が生涯にわたって主体的に学ぶ力を付けるため、豊かな人間性と、心身の調和のとれた児童の育成を目指し、次の目標を設定する。

◎ よく考える子 ○ 心豊かな子 ○ じょうぶな子

児童一人一人に基礎的・基本的な内容の確実な定着と、それを活用して課題を解決する力を育む。そのために、成功体験・克服体験の積み上げを支援し、認め合い、支え合い、高め合いながら、めあての実現に向けて努力する児童の育成に主眼を置き、「よく考える子」を重点目標に定め、その具現化に努める。

(2) 特別支援学級の教育目標

- ◎ 自分で考え行動できる子供
- 自分のことは自分でできる子供
- 友達と仲良くし助け合える子供
- 心身共に健康で元気な子供

(3) 学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

- ア 学校生活支援シートに基づき、将来にわたって一貫した支援を受けられるよう、関係支援機関や保護者との連携に努めるとともに、児童の実態に基づいた個別指導計画を作成し、目標と手だてを明確にしながらか学校生活全体で身辺自立に向けた指導を充実させ、地域に根ざした豊かな生活を営むことができる力を育成する。
- イ 児童の実態や認知特性に応じた指導を充実させるために、全教職員で支援や指導方法の工夫等の授業改善に努め、学習や生活の基本となる国語の「聞く・話す・書く・読む」の力を向上させるために、各教科を関連させながら系統的に授業を行う。
- ウ 障害の状態にかかわらず、学校生活の基礎集団である学級において、集団参加（社会参加）に必要なルールやマナー、人との関わり方などを学び社会性を育むとともに、いじめに向かわない態度・能力を育成し、児童が安心して学校生活を送ることができるようにする。
- エ 外国語、外国語活動の校内研究を通して、年間指導計画を確実に実施し、コミュニケーションの素地や基礎を養い、「自分の思いを表現できる」児童の育成に努める。
- オ 人権意識を高めるために、全ての教育活動を通して、「相手を思いやる心」「自他の生命や人権を尊重する心」など心の教育の充実を図る。教員においては、人権意識を高め、体罰や不適切な言動等のない指導を常に心がける。
- カ 生活・運動習慣調査等を活用して、自分の心や体に目を向け、健康な体づくりを意識させるとともに、各教科等の学習を関連付けながら、自立に向けて自分の生活・体・健康を調整できる実践力を培う指導を充実させる。
- キ オリンピック・パラリンピック東京大会開催を踏まえ、様々な競技への関心や意欲を高めながら、生涯にわたってすすんで挑戦したり運動したりする態度を育成する。また、障害者スポーツへの理解を深めるとともに、障害の有無にかかわらずともにスポーツを楽しむ態度を育み、継続していくことを学校レガシーとする。
- ク カリキュラム・マネジメントを推進し、地域の教育力を積極的に活用し、体験活動を重視した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。

2 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動、教科等を合わせた指導の重点

ア 各教科

- (ア) 児童一人一人の課題に即した個別指導計画や年間指導計画を立て、基礎・基本を身に付けるために系統的に指導する。
- (イ) 児童の課題や単元の内容に応じた多様な集団をつくり、学び合う関係を重視した指導を行う。
- (ウ) 興味・関心のもてる教材や教具を工夫し、ICT機器を活用して意欲的に楽しく学びながら豊かな発想力を育て、理解を深めることのできる授業を行う。
- (エ) 多様な行事や豊かな体験的学習を通して基礎学力を生かし、よく聞き、すすんで考え実践する思考力・判断力・表現力を育成するとともに、人との豊かな関わりを通して実践力の育成を図る。
- (オ) 自信や自己肯定感を育てるために、学習のめあてや児童個人のめあてを設定し、丁寧に評価することで、満足感や達成感を十分に感じられるような教育活動を展開する。
- (カ) 学習に見通しをもたせ、既習事項を生かしたり問題意識をもたせたりしながら、主体的・対話的でより確かな認識力の定着を図る授業を展開する。
- (キ) 小・中学校の連携を一層深め、学校間や学級間の交流を図るとともに、教職員の共通理解に基づいた学習指導の充実を目指す。

イ 特別の教科 道徳

- (ア) 身近で具体的な問題を随時取り上げ、全教育活動を通じて道徳的実践力の育成を図るとともに、「特別の教科 道徳」にて「考える」道徳へ向けた指導法を工夫していく。
- (イ) 心豊かな児童の育成を具現化すべく、児童の実態に即した多様な教材の開発や授業展開の工夫改善を進めるとともに、道徳授業地区公開講座を開催し、地域・保護者と共に道徳教育の充実を図る。

ウ 外国語活動

- (ア) ALT(英語講師)による外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ、児童の発達段階に応じた言語活動の充実を図り、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、外国の文化に触れたり体験したりしながら、グローバル社会で活躍できる人間の育成にもつなげる。

エ 総合的な学習の時間

- (ア) 植物の栽培や宿泊事前学習を通して、各教科や生活単元学習、特別活動で身に付けた知識や技能等を生かし、自ら課題を見付けたり、役割を選び取ったりできるような支援をしながら、主体的に学ぼうとする意欲や態度を養う。
- (イ) 個々の実態に応じて課題を設定し、学校図書館やコンピュータ等を活用して課題を解決する力を養うと共に、情報モラルを身に付ける。
- (ウ) 発表の機会を作り、学んだことを共有、共感することにより、自分と仲間のよさを認め合いながら学習を深めさせる。
- (エ) 児童の実態に応じた学級図書充実させるとともに、学校司書と連携し学校図書館を活用して調べ、学習に取り組む。

オ 特別活動

- (ア) 班活動や学級会での話し合い活動を通して自己表現や自己決定の力を育て、自主的・実践的な態度を養う。
- (イ) 学校行事やクラブ・委員会等の活動を通して通常学級との交流を図り、望ましい人間関係を培いよりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。
- (ウ) 学級活動の時間を中心に「キャリアパスポート(自分手帳)」を活用し、児童が自身の変容や成長に気付き、自己肯定感を高め、目標をもてるようにする。

カ 自立活動

- (ア) 一人一人の児童の課題を明確にして、各教科等を合わせた指導で行う。

キ 教科等を合わせた指導

- (ア) 生活単元学習では、自ら目標や課題を選択したり決めたりしながら、自立に必要な事柄や技術を実践的に身に付けていけるよう体験学習を重視する。
- (イ) 生活単元学習では、個別指導計画や年間指導計画を立て、児童の実態に応じて社会的な学習や自然科学的な学習の充実を努める。また、身近な生活から問題を取り上げ、観察したり調べたりしてより確かな知識や理解へとつなげていく。

(2) 生活指導

- ア 個別指導計画の基本的な生活習慣における個々の課題を明確にし、全教育活動を通じてきめ細かな指導を行い、すすんで取り組む生活態度を育てる。
- イ 「早寝・早起き・朝ごはん、外遊び」の特に「外遊び」の奨励に重点を置き、運動の日常化を推進するとともに、南町10箇条を継続して指導し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ウ 安全教育計画を基に交通安全教室、自転車の安全な乗り方の指導を行う。
- エ 緊急災害時における基本的な行動を身に付けることができるよう、あらゆる想定による防災避難訓練及び不審者対応訓練を実施し、防災意識を高めていく。
- オ 事件や事故から自分の身を守る意識を高める「セーフティ教室」や「SOSの出し方に関する教育」、外部講師を招いての「薬物乱用防止教室」及び「禁煙キャラバン」を通して、健康、安全教育の充実を図り、危機回避能力の育成に努める。
- カ 不登校傾向の児童に関して未然防止のため、保護者やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と密に連携していくとともに、不登校児童に対しては個別支援シートを作成し、きめ細かい対応をしていく。
- キ いじめに関する児童の実態調査を毎学期1回実施し、「学校いじめ防止基本方針」を見直し、学校全体が組織的に未然防止・早期発見や迅速な対応に努め、「いじめ」の根絶を図る。
- ク 情報モラル教育を中心に、ネット上のルールやマナー、危険回避に対する対応についての指導を充実させ、規範意識を高めていく。
- ケ 学習や生活において困難さや課題をもつ児童においては、特別支援教育コーディネーターと連携し、校内委員会を活用して学校全体で指導を考えたり共通理解を図って対応したりする。

(3) 進路指導

- ア キャリア教育として、全教育活動を通して児童一人一人が自己理解を深め、すすんでめあてや役割を選択することのできる能力の育成に努める。
- イ 将来の見通しや具体的な進路先について保護者とともに考え、自己実現に向けた適切な進路指導を全教職の共通理解の下で行う。
- ウ 小・中学校の連携を一層深め、体験学習や交流等を通して進学への見通しや期待感を高める。

3 教育目標達成のための特色ある教育活動・その他の配慮事項

- (1) 個に応じた指導を充実させるとともに、様々な人との関わりを通して学び合いを深めるため、個と集団のつながりに配慮し、様々な学習集団を形成し、目標や手だてを明確にした個別指導計画と各教科等の学級及びグループの年間指導計画を立て実践に努める。
- (2) 通常の学級や情緒特別支援学級との交流及び共同学習の機会を設け、連絡を密にしながら相互理解を深め、児童の共に学び共に生きる力の育成に努める。また、通常の学級において特別支援学級の担任が講師となり、障害理解教育を展開していく。
- (3) 自立に向けて地域の中での関わりを広げるために、市内の特別支援学級や地域の支援学校との交流をすすんで行う。
- (4) 児童の実態に合わせた学級図書を充実させ、朝の読み聞かせなどにより言語環境を整え、読書への関心を高め、豊かな心情を育てる。
- (5) 保護者会・地域訪問・個人面談・学級便り・日々の連絡帳等を通して、常に保護者と情報交換や意思疎通を行い、児童や指導の相互理解を深める。
- (6) 学校評価の結果をふまえ、野菜を育て収穫する学習や調理活動を通して、食への興味・関心を高め、よりよい食習慣を身に付けようとする食育を推進する。
- (7) 一校一取組としての持久走やなわ跳びの推進月間を設定し全校体制で取り組み、運動の日常化を図る。また、一学級一実践として、児童・生徒体力・運動能力・生活・運動習慣等調査の結果考察を基に体育的行事委員会の提案した運動を授業の中に取り入れていくと共に、朝の時間を活用した「がんばりタイム」でのマラソンや、毎月の歩行学習で、体力や持久力を高める。
- (8) 地域講師による餅つきや正月遊び、和太鼓演奏等の体験活動を通して、日本の伝統・文化への理解や関心を高め、大切にしている心情を育てる。

第3表の1 (小学校)

学校名 東久留米市立南町小学校(知的障害特別支援学級)

4 授業日数及び授業時数の配当

(1) 年間授業日数配当表

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	18	19	23	14	3	20	23	19	20	15	18	18	210
2	18	19	23	14	3	20	23	19	20	15	18	18	210
3	18	19	23	14	3	20	23	19	20	15	18	18	210
4	18	19	23	14	3	20	23	19	20	15	18	18	210
5	18	19	23	14	3	20	23	19	20	15	18	19	211
6	18	19	23	14	3	20	23	19	20	15	18	19	211
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜授業を6回実施し、振替休業日は、2日間設定した。(11月21日、2月20日) 5月16日 6月20日 10月17日 11月21日 12月19日 2月20日 ・9月26日(土)運動会 とし 9月28日(月)を振替休業日とする。 ・11月21日(土)学芸会とし、24日(火)を振替休業日とする。 ・1~4年生は卒業式不参加のため、1日減。 												

第3表の2 (小学校)

学校名 東久留米市立南町小学校 (知的障害特別支援学級)

(2) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動、
各教科等を合わせた指導の年間授業時数配当表

① 各教科

教科名		学年	1	2	3	4	5	6
各 教 科	国 語							
	社 会							
	算 数							
	理 科							
	生 活							
	音 楽							
	図 画 工 作							
	家 庭							
	体 育							
	外国語活動 (英語活動)							
知的障害者である児童に対する教育を行う 特別支援学校の各教科	教科名	内 容						
	生 活	公共施設の利用、自然や生き物、家族・社会	52	54 2/3				
	国 語	文字の読み書き 言葉のきまり、書写、	181	213	202 2/3	209 1/3	212	210
	算 数	数と計算、時計の読み 長さ・重さの理解と比較、	122 2/3	145	145	145	145	145
	音 楽	歌唱や楽器演奏 リズム遊び・合奏	70			70		
	図画工作	絵画と工作 粘土等造形遊び、鑑賞等	80					
	体 育	基本的な運動 道具を使った運動、水泳等	110		115			
小 計		615 2/3	672 2/3	612 2/3	619 1/3	622	620	

第3表の2 (小学校)

学校名 東久留米市立南町小学校(知的障害特別支援学級学級)

② 特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動

領域	内容	1	2	3	4	5	6
特別の教科 道徳	きまりを守ること、感謝、礼儀、生命尊重 等道徳的な心情、判断力の実践 社会性の 学習	34	35	35	35	35	35
外国語活動	英語を用いたコミュニケーション能力の 育成					11	11
総合的な 学習の時間	宿泊学習に向けて 栽培・調理活動 コン ピュータ 調べ学習			70			
特別活動	話し合い活動 自分を知ろう (自分手帳作り)	45					
自立活動	身体的な取組 手芸 和太鼓 (各教科等を 合わせた指導で行う)						
小 計		79	80	150	150	161	161

③ 各教科等を合わせた指導

指導の形態	内容	1	2	3	4	5	6
日常生活の指導							
遊びの指導							
生活単元学習	飼育・栽培 宿泊学習 校外学習 調理学習 歩行学習 英語活動	228	232	252	272	269	262
小 計		228	232	252	272	269	262

(3) 年間総授業時数 (①+②+③)

学 年	1	2	3	4	5	6
年間総授業時数	922 2/3	984 2/3	1014 2/3	1041 1/3	1052	1043

備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位時間は45分とする。 ・委員会活動を授業時数外として、単位時間45分で年間11回実施する。 ・クラブ活動を授業時数外として、単位時間60分で年間16回実施する。 4月13日 4月20日 4月27日 5月11日 5月18日 6月15日 6月22日 7月6日 8月31日 10月5日 10月12日 10月19日 12月14日 1月18日 1月25日 2月8日 2月15日 2月20日 (クラブ発表会 45分) 3月8日 ・第1、2学年の英語活動の8単位時間を、生活単元学習で行う。 ・第3、4年の外国語活動の8単位時間を、生活単元学習で行う。 ・第5、6学年は外国語活動を11時間行う。
-----	---

第4表の2

学校名 東久留米市立南町小学校 (知的障害特別支援学級学級)

月 曜 行 事 日	10		11		12		1		2		3	
	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事
1	木	都民の日	㊤		火		金	元日	月		月	
2	金		月		水		土		火		火	
3	㊤		㊤	文化の日	木		日		水		水	安全指導
4	㊤		水		金	連合音楽会(5)	月		木		木	
5	月		木		㊤		火		金		金	
6	火		金		㊤		水		㊤		㊤	
7	水	安全指導	㊤		月	安全指導 ㊤四校交流会	木	冬季休業日終	㊤		㊤	
8	木		㊤		火		金	始業式	月	安全指導	月	
9	金		月		水		㊤		火		火	
10	㊤		火		木		㊤		水		水	
11	㊤		水	安全指導 小中連携の日	金	㊤連合運動会	㊤	成人の日	㊤	建国記念の日	木	
12	月		木		㊤		火		金		金	
13	火		金		㊤		水	安全指導	㊤		㊤	
14	水		㊤		月		木		㊤		㊤	
15	木		㊤		火		金		月		月	避難訓練
16	金		月		水	避難訓練	㊤		火		火	
17	土	学校一斉公開日 道徳授業地区公開講座	火		木		㊤		水	避難訓練	水	
18	㊤		水		金		月		木		木	
19	月	避難訓練	木		土	土曜授業 かけ足持久走大会	火		金		金	
20	火		金	学芸会始	㊤		水		土	土曜授業	㊤	春分の日
21	水		土	学芸会終 土曜授業	月		木		㊤		㊤	
22	木		㊤		火		金	避難訓練	㊤	振替休業日	月	
23	金		㊤	勤労感謝の 日	水		㊤		㊤	天皇誕生日	火	
24	㊤		㊤	振替休業日	木		㊤		水		水	修了式
25	㊤		水		金	終業式	月		木		木	卒業式
26	月		木	避難訓練	土	冬季休業日始	火		金	㊤校外学習	金	春季休業日始
27	火		金		日		水		㊤		土	
28	水	㊤宿泊学習始	㊤		月		木		㊤		日	
29	木		㊤		火		金	子どもまつり			月	
30	金	㊤宿泊学習終	月		水		㊤				火	
31	㊤				木		㊤				水	
備 考												

(1) 学級編制

ア 認可学級数 ()

イ 児童・生徒数 ()

学年 性別	小 学 校							中 学 校			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計
男											
女											
計											

ウ 基本となる学級編制

○ 小学校

学 級 名	児童数	教員数	学 級 編 制 上 の 方 針	
			学年構成	配 慮 事 項

○ 中学校

学 級 名	生徒数	教員数	学 級 編 制 上 の 方 針	
			学年構成	配 慮 事 項

